

## BIM ライブラリ技術研究組合/部会 2

## 第3回在り方・運用合同部会 議事要旨

【日 時】 令和2年12月22日(火)15:30~17:30

【場 所】 Teams による Web 会議

【出席者】 (敬称略・順不同)

氏名	所属	氏名	所属
安田 幸一	東京工業大学/在り方部会長	帆足 弘治	(一財)建設業振興基金
山本 康友	東京都立大学/運用部会長	山下 純一	(一社)buildingSMART Japan
高倉 智志	(公社)ロングライフビル推進協会	金沢 純太郎	(地法)日本下水道事業団
大森 文彦	大森弁護士事務所	富樫 俊文	(地法)日本下水道事業団
平野 雅之	グラフィソフトジャパン(株)	石川 隆一	(株)粹設計
波多野 弘和	日本郵政(株) (他2名)	泉 清之	NPO 建築技術支援協会
井上 直樹	(株)ダイテック	足達 嘉信	鹿島建設(株)
後藤 孝二	(株)構造計画研究所	足立 友和	(株)竹中工務店 鳥澤代理
福田 義徳	(株)NYK システムズ	長田 公秀	(株)熊谷組
上野 賢	パナソニック(株)	楠山 登喜雄	(一社)日本建築積算事務所協会
渡邊 純一	パナソニック(株)	本谷 淳	(株)大林組
安孫子 義彦	C-PES 研究会	鬼頭 篤子	(株)大林組
遠藤 衡樹	(一社)日本電設工業協会	林 征弥	東急建設(株)
岡村 徹	佐藤工業(株)	寺本 英治	BLCJ
弘法堂 啓一	佐藤工業(株)	福島 孝治	BLCJ
関根 悦子	(株)ノーリツ	山口 浩史	BLCJ
吉田 哲	(株)日建設計	渋谷 玲	BLCJ
安井 謙介	(株)日建設計	福島 孝治	BLCJ

(以上 38 名)

## [確認事項]

- ・ 第3回技術運営委員会での決議事項報告
- ・ 第5回建築 BIM 推進会議における発表内容について報告
- ・ 2020年度 PRISM 業務における在り方部会の取組内容について確認

## [懸案事項]

- ・ ビジネスモデルは継続検討

## 資料

- 【資料 1】 議事次第
- 【資料 2】 第 2 回在り方・運用合同部会議事録
- 【資料 3】 第 3 回技術運営委員会議事録
- 【資料 4】 2020 年度 PRISM 業務
- 【資料 5】 第 5 回建築 BIM 推進会議発表資料
- 【資料 6】 BLCJ BIM オブジェクト標準 ver2.0 への論点整理

## 議事

### 1.第 3 回 BLCJ 技術運営委員会の報告

寺本：（【資料 3】 資料 3 第 3 回技術運営会議の決議事項について報告）

### 2. 第 5 回建築 BIM 推進会議の報告

寺本：（【資料 5】 第 5 回建築 BIM 推進会議発表資料の内容説明）

### 3.今後の在り方部会の取組(2020 年度 PRISM)

福島：（【資料 4】 在り方部会の内容 4)-2,4)-3 を説明）

安田： 配信方法やビジネスモデルはあまり見えていないが、今後のロードマップは？

福島： 属性情報だけを配信する例が無いので、情報の整理をどうやっていくかは新たな試みである。民間ライブラリの状況、属性情報の状況を整理しながら検討を進めていく。

### 4.その他

・ BLCJ BIM オブジェクト標準 Ver2.0 について

寺本： （【資料 6】 BLCJ BIM オブジェクト標準 ver2.0 への論点整理の説明）

この内容を目標として 2020 年度末までに合同部会で議論する予定。

安田： Ver1.0 は NBS と揃っているのか。

寺本： 技術的条項を取り上げて日本版としている。NBS1.1+日本版情報が BLCJ1.0 である。国際バージョンがあり、ローカルクローズを取り入れる打診があった。

NBS2.0 が出たところに NBS Chorus との仕様書連携が作業されていた。

安田： 建研は PAS119A と揃えるべきと意見があった。

- 寺本： 考え方の提案だった
- 安田： 海外の人も BLCJ 標準を使うことになるときに諸外国と違うと使いづらい。  
すぐ英語に訳せるものにした方がよい。拡散すると根本の議論に戻ってくるのが大変。
- 寺本： 知的所有権については構わないがバージョンについてはあまり議論しなかった。
- 安田： 仕様書・建築確認との連携については日本版にならざるを得ないと予測する。
- 寺本： NBS の仕様書は確かに日本と違う。仕様書の中身は日本版に沿う必要がある。  
連携部会で検討した結果、3 年毎の改訂のとき章・節・項も変わる可能性がある。  
データ対応が 1:1 でない部分、参照項目が別途ある部分等もあり、システム化については今後検討。
- 山下： ライブラリという制約の上で、仕様書・確認申請の連携はうまくいくだろうか。
- 寺本： NBS はライブラリ・仕様書を持っている。  
海外では仕様書を一から書くところを穴埋め形式として簡略化を図っている。  
日本では標準仕様書があり、必要な部分を特記をする形式。  
特記すべき項目は仕様書、管理要領、JAS があるため考え方の流れはしっかりしているがシステム化は難しい。提供する情報は示す。
- 山下： NBS は仕様書で食っている団体で、ライブラリは付属物。
- 寺本： ICIS にスペックライターという職業があり、選択のサポートをする役割が大きい。  
特記仕様書、施工管理要領、施工計画書との連携があり、設計者が骨格まで示せると現場でのロスや大きな間違いはなくなる。
- 山下： 各国の連中と話をするとスペックの重視の仕方が大きい。仕様書が命であり、感覚の違いがある。ライブラリから迫るより、仕様書からライブラリに迫る方が正解では。
- 安田： 日本でも仕様書が図面より上位である。BIM 化することは欧米と同様な仕事のやり方に変容していかないとならないのでは。
- 寺本： 仕様書のシステムは独立システム。属性情報を介して繋がっているが、BIM 以外でも可能である。
- 吉田： 仕様書ありきだがデジタル化がなされていない。ライブラリ単独のビジネスモデルは難しいため、仕様書との両輪で検討を始めた。
- 安田： ライブラリ使用料は取れないため仕様書でとる NBS 型  
見積項目調整はシステム化できると思っている。仕様書・ライブラリ・見積の情報を提供するだけでなく、情報を流す部分で課金する方法を考えている。
- 楠山： 日本の見積もり方式はある意味よくできているが QS とはかなり違う。内訳の構成も違う。考え方によっては日本の仕様書は脇が甘くない、実用的にできているから有効利用しやすい。

RIBC の原型は照井氏であり、内訳書を作っていこうとしていた。内訳書の標準化がかなり進んでいる。比較しやすく BLCJ での考え方が固まれば調整しやすいと思う。

従来のシステムを新しいプラットフォームでどうするか考えつつある。

安田： 日本は QS という商売が少ない。二重価格も BIM の中では課題である。

楠山： 下請けの諸経費率をどう考えるか、契約制度をどう考えるか。一般管理費等をあいまいにしている。価格開示し利益も明示しないとなりたないのではないか。

複合単価は土木を意識するとやりやすいが建築の運用ではやりにくい。

一式請負との契約の違い。実費精算価格開示方式でできないわけではない。利益を明らかにしている。

属性情報としてコストを入れても、BIM でやると形と連携してわかりやすいというメリットがある。

安田： 価格開示方式に変わっていくことを期待する。

次回開催予定：

2月25日（木）15:30～17:00

（以上）